vol.o8 2020年夏号

医療の届かないところに医療を届ける

ジャパンハートニュース

Japan Heart News

Dream Trainの子ども連

特集

・カンボジア国内での評判が広がり患者数が増加。患者さんへの給食提供システムも運用中（カンボジア）
・ミャンマー国内の口腔外科医および地方の看護師・助産師への指導を推進中
（ミャンマー 口唇裂・口蓋裂総合治療プロジェクト）
・看護師が看護期間に感じる子どもの成長と、家族との関係性の変化（ミャンマー ワッチェ慈善病院）
・4カ国の医療者が活躍中！ ～ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療～（ラオス）
・皆の心に残る最高の笑顔が見られた東京ディズニーシーイベント（SmileSmilePROJECT）
・iER初の学会発表「ミャンマー国における民主化後の災害支援政策」（国際緊急救援）

Japan Heart

Cambodia
カンボジア

カンボジア国内での評判が広がり患者数が増加
患者さんへの給食提供システムも運用中

ジャパンハートこども医療センターは、カンボジアに病院を開院してから5年目を迎えました（小児病棟を増築してから3年目です）。 患者さんに寄り添った丁寧なケアを行う病院として地域でクチコミで広がり、2019年度の外来患者数は昨年より25%増え、のべ16,000名以上が治療を受けました。(図１) 手術件数は過去数年間、1,000件強でしたが、今年は1,400件程にまで増加しました。(図２) かつてカンボジアでは助からないと言われていた小児固形がんの患者さんも、1年半の間に60名が当院を受診してくれました。現在は15名が入院し治療を受けています。

ジャパンハートこども医療センター

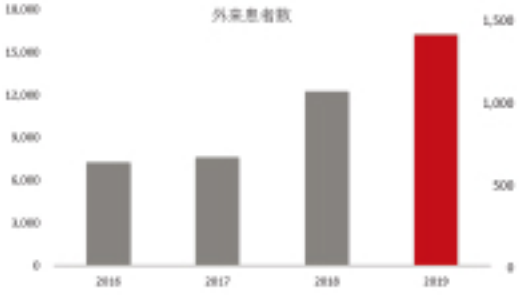

図１

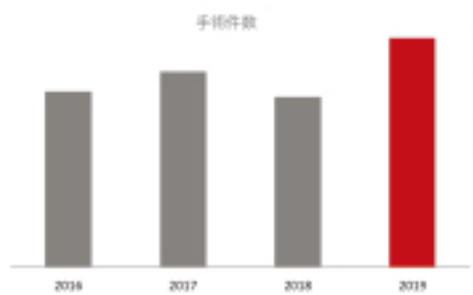

図２

患者さんに衛生的な給食を届ける栄養管理部の活躍

免疫の下がった小児がん患者さんの治療を支える給食センターは、昨年10月より給食提供を開始しました。治療を受ける患者さんに、病態に即した安全な食事を提供するだけでなく、外出ができず、薬による苦しい副作用と闘う患者さんに、食を通して心の支えとなることも目指しています。
現在は、がん以外の疾患で入院している患者さんにも安全な給食を提供できるよう準備を進めています。

このようなボードを通じて、各患者さんの病状を共有し、医療者と栄養士・調理師の間でコミュニケーションを図りながら、適切な食事の提供を行っています！

from Cambodia

"私たちは、すべての人が「生まれてきてよかった」と思える社会を実現する"
ジャパンハートこども医療センターに勤める職員は、患者さんにとってベストな治療方法とは何かを日々考え、より良い医療を患者さんに提供するために努力しています。以下に、その最前線を歩むカンボジア人看護師から皆様へのメッセージをお届けします。

『日本の皆さんには、本当に感謝しています。当院では大人から子どもまで治療できますし、多くの手術もできます。特に、小児がんに関しては、カンボジアでは極めて困難だった治療を実現しています。もともと、病院には末期の状態で来る患者さんが多く、家に帰すしかありませんでした。
でもここでは、私たちはそんな患者さんも診ることができます。たとえ希望が大きくても小さくても、来てくれる患者さんを診ることができるのです。
一方、患者さんが亡くなってしまうことも少なくなく、私たちはまだまだ十分ではありません。でも、自分が何の病気か分からずに亡くなってしまうことが多いカンボジアにおいて、多くの患者さんを救えるこの病院は、大変ありがたく、とても感謝しています。』　（小児病棟看護師リーダー　スレイトーイ）

皆様のご支援でこんなことができました！

◀日本から小児外科専門家チームを招へいし、カンボジアでは極めて治療困難である小児がんの手術の実施が叶いました（2019年度下半期は2カ月に1回招へいし、計8名の手術を実施しました）。

▶入院中の病気と闘う子どもたちに安全な食事を届けるための食器が購入できました！

Myanmar
ミャンマー

ミャンマー国内の口腔外科医および地方の看護師・助産師への指導を推進中

ミャンマー
口唇裂・口蓋裂
総合治療プロジェクト

2019年9月よりスタートした「ミャンマー口唇裂・口蓋裂総合治療プロジェクト」は、ミャンマーの保健省との協力関係のもとで日本の治療体系をミャンマーの実情にあった形で移行し、それを担う医療人材を育成する事を目指しています。
現在は、ミャンマー全土から選ばれた口唇口蓋裂治療の中心的役割を担っていく口腔外科医25名に対し、疾患の基礎から外来診察方法・手術方法や術後管理、そしてフォローアップ体制の指導を行うと共に、ミャンマー各地を回っての手術活動や看護師・助産師への指導を行っています。
2020年1月には、ヤンゴンから国内線で2時間、それから山道を車で8時間走った場所にあるミャンマー北西部の山岳地帯、チン州の州都ハーカーにて、現地の看護師さんと助産師さんに対し、出生直後の口唇口蓋裂の赤ちゃんの育児や授乳方法の指導、母親を中心とした養育者への精神的サポートの必要性に関する講義を実施しました。中には「口唇口蓋裂の赤ちゃんの出産を1人で担当して、その時はどんなケアをしていいのか戸惑った…」という助産師さんも。しかし、講義の後には「これからは病院に行くまでに、私たちだけでもできることがたくさんある」と笑顔で話をしてくれました。
今後10年をかけて、口唇裂・口蓋裂の患者さんや家族を取り巻く環境を、少しずつでも良い形に変えて行くことを目標に頑張ってまいります。

平原綾香さんがDreamTrainにご来訪！皆が感動した歌のサプライズプレゼント交換

養育施設
Dream Train

1月12日、平原綾香さんがDream Train（ドリームトレイン）をご訪問くださいました。平原さんは、これまでも音楽イベント出演のためにミャンマーを訪問されたご経験があり、今回はこの国の厳しい環境の中で生きる子どもたちの力になりたい、という想いを持って渡緬されました。ミャンマーでも名を馳せるシンガーである平原さんの訪問を知った子どもたちは、感謝の気持ちを込めて歌のプレゼントをすることに決めました。選んだ曲は、平原さんの「おひさま～大切なあなたへ」。何度も練習を繰り返し、当日を迎えました。子どもたちの歌声を聞いた時に平原さんの目から溢れた涙と、平原さんがお礼にと歌ってくださった「MOSHIMO」の一節、そして「Jupiter」の歌声は一生忘れられない宝物です！
そして、2月。ヤンゴンで行われた「ジャパンミャンマー祭り2020」にご招待いただいた子どもたちが、平原さんとの再会を果たしました。後日、子どもたちが書いた感想文には、平原さんへの感謝の想いと共に「私も平原さんのように有名な歌手になって、相手を笑顔にできる人になりたい」「僕の人生には幸せな思い出がたくさんあるけれど、この経験は今まで以上に幸せなものだった！」「日本とミャンマーが、皆で一所懸命舞台を作り上げていたことが素晴らしかった」など、感動と喜びの声で溢れていました。

平原さんとDream Trainの子ども達で記念撮影もしました！

from Myanmar

看護期間に感じる子どもの成長と、家族との関係性の変化

シンボンニャ君は胸にできた大きなかたまりを取る手術のために、お母さんと共にワッチェ慈善病院に来ました。
手術後の傷は大きく、お母さんは最初のうちは「傷を見るのが怖い…」と言って見ることさえできませんでした。入院中、毎日処置を行い傷の状態も徐々に良くなったため、自宅でもできるようお母さんに「一緒に傷の手当てを行いましょう」と提案しましたが、恐怖心から傷の処置をなかなか行うことができませんでした。しかし、スタッフがお母さんの気持ちに寄り添いながらかかわり続けることで、徐々にお母さんも手当てが行えるようになり、傷の状態も良くなっていきました。
シンボンニャ君は今、14歳。私たち看護師と話すのは恥ずかしいと言って目を合わせることは少なく、多くは語ってくれませんでした。しかし現在は、お寺に住んでお坊さんになるための修行をしているそうで、「まだどんなお坊さんになりたいかは分からないけれど、お坊さんになるために頑張りたい」と照れくさそうに話をしてくれるようになりました。
ワッチェ慈善病院に初めて来た時から約2カ月が経ち、この間にも身長が伸び大人の顔つきになっていったシンボンニャ君。処置を行うときも決して弱音を吐かず、遠くを見て静かに耐えている姿が印象的でした。これからどんなお坊さんになるのか楽しみです。（ワッチェ慈善病院　国際看護師研修 54期研修生　下瀬寛子）

皆様のご支援でこんなことができました！

◀Dream Trainでは、3月より、新たに11名の子どもたちが日本語学習を開始しました。新型コロナウイルスの影響により、7月の日本語検定試験は延期になる可能性が高いですが、ご寄付により購入させていただいた教材を使用し、未来のための勉強を継続しています！なお、日本語検定試験受験希望者の合計人数は21名です。子どもたちは皆、日本の皆さんと話せることを夢見て日々勉強を頑張っています！

LAOS ラオス

4カ国の医療者が活躍中！
ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療

ヨード不足に起因する甲状腺疾患を抱える患者さんが多いラオス。その北部にあるウドムサイ県の病院で、私たちは引き続き活動を行っています。現地病院の医療者が自らの手で診療できるようになるために、技術移転も含めた診療活動を2019年9月・11月・12月、2020年2月・3月に行いました。内科診療活動は大江将司医師（ミャンマー長期ボランティア医師）が参加して実施。さらに、3月の診療活動は森田皓貴医師（カンボジア長期ボランティア医師）も参加して、合計で622名の患者さんを診療しました（再診含む）。
加えて、11月は吉岡秀人医師、2月は河内順医師（ジャパンハート認定医）が来てくださり、計18件の手術を行いました。
また、今回ご協力いただいたのは医師だけはありません。9月と2月には短期ボランティア看護師1名と臨床検査技師1名がそれぞれ日本から駆けつけてくださり、11月にはミャンマーのワッチェ慈善病院からアモ看護師が、2月にはカンボジアのジャパンハートこども医療センターから野田実里看護師とダニー看護師が参加し、安全な環境で活動を実施することができました。
このように、3カ国から集まった医療者達が、ラオスの病院でラオスの医療者と協力しながら、医療活動を実施しました。「医療を届けたい」という想いには皆一切の違いがなく、より良い医療の提供を求めて活動を行うことができました。
本医療活動もついに、現地病院への引き渡しの段階に入っていきます。技術を受け継いだラオス人医療者が安全な医療を提供できるよう、引き続き見守っていきたいと思います。

SmileSmilePROJECT

皆の心に残る最高の笑顔が見られた
東京ディズニーシーイベント

今回は、人気のディズニーキャラクター「ダッフィー」と「スティッチ」が大好きなりょうちゃんのお話をさせていただきます。
今年の3月、SmileSmilePROJECT（以下、SSP）は東京ディズニーシーに7組のご家族をお招きしました。りょうちゃんご家族は、入院生活中にこのイベントに応募してきてくれました。私たちが手作りした旅のしおりを見ながら、乗りたいもの、買いたいもの、行きたいところを真剣に調べて、とても楽しみにしてくれていたそうです。
当日は、痛み止めの注射もあまり使うことなく、お買い物やアトラクションを楽しむことができました。大好きなスティッチと握手したり、ダッフィーのぬいぐるみを買ったりしたりょうちゃんは、今までにないくらいの笑顔で「心の底からの嬉しさが見えたような笑みだった」とお母さんがおっしゃっていました。一緒に回っていたご家族やスタッフも自然と笑顔になるような素敵な時間を過ごすことができました。
このイベントの2週間後、りょうちゃんはお星様になりました。りょうちゃんのご両親は、「同じような病気の子どもたちやその家族の笑顔を作るお手伝いがしたい」と、現在はSSPのボランティアに参加してくれています。
私たちSSPスタッフがお子様やご家族と関われる時間はとても少なく、限られています。しかし、その限られた時間の中で、一生心に残るようなかけがえのない時間を過ごしてもらいたい、笑顔のあふれる時間を作りたい、そんな思いで活動を続けています。たくさんの笑顔が私たちの活力です。

iER - International Emergency Relief

国際緊急救援

iER初の学会発表「ミャンマー国における民主化後の災害支援政策」

2月20日より神戸市で開催された「第25回日本災害医学会総会・学術集会」で、ジャパンハート国際緊急救援事業では初となる学会発表の機会をいただき、ポスター発表を行いました。
発表の演題は「ミャンマー国における民主化後の災害支援政策」。他団体では国内災害に関わる発表が多い中、ジャパンハートとして特色ある"海外"をテーマとした発表を行うことができました。
2020年度以降、学会など災害医療にかかわるコミュニティの輪を広げ、実際の災害時に支援者間での円滑な相互協力関係が図れるような関係性作りに努めてまいります。

【学会発表内容】
ミャンマーは水害、風害、地震といった多くの自然災害リスクを抱えています。事実、2008年には、サイクロンナルギスによる甚大な被害に見舞われました。
日本の災害対策が阪神淡路大震災を契機に進展していったように、ミャンマーにおいてはこのナルギス以降、2010年の民主化と共に災害対策が国家単位で進展していくことになりました。しかしながら、都市と地方での災害対策に対する意識の温度差、災害時の社会的弱者へのアプローチは、まだまだ議論を重ねていく段階です。ジャパンハートの平時医療のリソースや政府とのネットワークといった強みを生かし、災害時に医療へのアクセスができない地域に医療を提供し、社会から取り残される人々に希望を与えられるような活動を目指します。

Tokyo Office News
ジャパンハート東京事務局

ご自宅で楽しめるお勧めコンテンツ盛りだくさん！

◆ 大切なお知らせ ◆
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患された皆さま、および関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。弊団体では、感染拡大防止のため、イベント開催の延期やオンラインイベントへの切り替え、テレビ会議面談の導入といった対応を進めています。また、東京事務局でも職員は原則在宅ワークをしているため、お問い合わせはホームページの「お問い合わせフォーム」からお願いしております。ご不便をおかけし大変恐縮ですが、皆さまのご理解とご協力を賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

Recommend①
■ ACジャパン 2020年度支援キャンペーン
ジャパンハートは、ACジャパンの支援キャンペーンに採択され、昨年からテレビCMほかラジオCM、電車内広告（関東圏）、駅ポスターの掲示などを行ってきました。今年7月からは新たなビジュアルで、2回目となるキャンペーンを実施します！引き続きご注目ください！　以下、現在キャンペーン中のビジュアル

Recommend②
■ ジャパンハート初の写真集『ONE SKY』
フォトグラファーの内藤順司氏が7年にわたり撮りだめたジャパンハート海外活動地での写真が、昨年12月、ついに写真集となりました。写真集には吉岡秀人の書き下ろし原稿も収録。皆さまのお手に取っていただけると幸いです。※写真集の売り上げの一部がジャパンハートの活動費に充てられます。

Recommend③
■ 最新動画がご覧いただけます！
ジャパンハートでは、直接お会いできない皆さまへ、数多くの動画を制作し「YouTube」でご覧いただけるよう準備いたしました。
ご自宅でおくつろぎの際、是非ご覧ください。

1 新型コロナウイルス感染症対策現場からのレポート

15,000 人の想いをマスクに代えて、日本の医療危機を救う

「医療機関にマスク等の防護具が枯渇しており、院内感染が起こっている。このままでは、感染爆発を前に、日本の医療体制が崩壊してしまう…。」非常事態宣言が発表された４月初旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、医療現場から悲痛な声が届くようになりました。私たちの活動は多くの医療従事者に支えられており、海外だけでも年間約 800 名のボランティアが参画しています。普段は国内で活躍する彼らが、感染のリスクに晒されている。

本来であれば患者毎に取り換える使い捨てマスクを、１週間に数枚しか消費することが出来ない。医療従事者自ら、早朝にドラッグストア店頭に並んで調達している。５月中旬より政府や他団体からの物資供給も予定されていた中、多くの医療機関にとって、ゴールデンウィークまでの約２週間を乗り越えられるかが死活問題でした。ジャパンハートは、「最短最速で医療従事者にマスクを届ける」ことを至上ミッションとして、緊急支援を開始しました。

クラウドファンディングとチャリティオークションを実施したところ、２日足らずで約 15,000 人の方々から１億５千万円もの資金を調達。コメント欄には、医療従事者への感謝と励ましの言葉が寄せられました。私たちは寄付者の皆様の期待を背負いながら調達した計約 200 万枚を、緊急度の高いと判断される先から順に、全国 700 以上の機関に届けることが出来ました。

今回改めて認識したことは、多くの人の、見知らぬ誰かを思いやる気持ちの強さです。プロジェクトに関わったすべての方々が、一丸となって医療従事者のために奔走していました。ジャパンハートは行動指針のひとつに、「相手の人生を自分の人生のように大切にする」ことを挙げています。「何かしたくても、どうすれば良いのか分からなかった」という想いを、私たちが支援を通じて形に出来たのだとしたら、団体としてそれ以上の幸せはありません。

Japan Heart

2 新型コロナウイルス感染症対策現場からのレポート

ジャパンハート海外医療チームによる日本の医療を支える活動

普段は海外各地で活躍しているジャパンハートの医師・看護師チームが、国内感染症患者数の拡大に応じて帰国し、最前線の現場を支える活動を実施しています。

まずは、平常時から離島・僻地への医療従事者派遣で繋がりがある長崎県にて。停泊していた船舶「コスタ・アトランチカ」で集団感染が認められたことから、県の要請を受けて実施した水際作戦への参加です。

ジャパンハートの海外活動地においては、感染症を専門とする所属医師の指導下でウイルス対策を実施していますが、重要なことは感染症診療の原則を踏まえつつ、同時にその現場ごとの環境に合わせた「ここでのコロナ対策」を作り上げていくことです。下船患者の状態確認や誘導、濃厚接触者へのPCR検査、状態悪化した患者のCT撮影や救急搬送の対応等、4月末から約3週間にわたって活動を実施し、感染に関わる医療ニーズの減少を確認の上で撤収しています。

また感染症の拡大時に「最前線」となる医療機関は、患者受け入れを行う病院だけではありません。欧米では死者数が増えた要因のひとつとして高齢者施設の施設内感染が挙げられており、フランスでは感染の約40%が高齢者施設で発生したと言われています。日本国内でも、介護福祉施設は病院と比較してマスクや消毒薬の備えが少なく、そこで勤務するスタッフも、通常使用することのないPPE（個人用防護服）を正しく活用する訓練を受けているわけではありません。ジャパンハートでは予測されている感染症拡大の第二波・大三波に備え、介護福祉施設の職員の方々向けにPPEの着用指導を継続的に実施していきます。

ここ数ヶ月の感染症対応で、多くの医療現場が疲弊しきっているのも事実です。私たちは、寄せられているたくさんのSOSに応えるべく、マンパワーの不足している医療機関に対して、医療スタッフの派遣も開始しました。「医療の届かないところに医療を届ける」。日本は必ずこの苦難を乗り越えることが出来ると信じ、ジャパンハートはこれからも、必要とされる支援の形を模索し続けます。

Japan Heart

より多くの子どもたちに医療を届けるために、
マンスリー寄付プランの内容をリニューアル致しました。

＜目的＞
1.ジャパンハートに共感し寄付してくださる方々に対して、その寄付がどう使われているのか、ご支援がどのように子ども達の命を救っているのかを発信することによって、皆さまのご支援にどれだけ価値があるかを知っていただきたい。

2.ジャパンハート創設者の吉岡秀人は、「他者や社会に貢献し、自分の存在価値を知ることで自分の人生が豊かになる」という哲学をもっています。私たちの活動に共感し寄付してくださる方々には、この哲学のように他者や社会により積極的に貢献し、自分の人生を豊かにする輪を広げていただきたい。

このような思いを踏まえて、寄付・支援方法に関する新しい取り組みを実施させていただきます。

ベーシックプラン
3,000円/月(1日100円)

ジャパンハートの活動内容や吉岡の人生哲学、皆さんの支援で助かった患者さんからのメッセージなどが詰まったメルマガや、皆様の支援のおかげで助かった子どもたちの特別動画を毎月お届けします。

スタンダードプラン
10,000円/月(1日333円)

ベーシックプランの内容に加えて、ジャパンハートアドバイザー全員が参加する、社会をより良い場所にしたいと望む人たちの居場所を作ることを目的としたコミュニティ「ジャパンハート部」にご参加いただけます。そのほか豪華ゲストや吉岡が登壇するトークイベントにご招待させていただきます。

プレミアムプラン
100,000円/月(1日3,330円)

スタンダードプラン内容に加えて、チャリティディナーのご案内や、公式SNSでのお礼メッセージの発信、VIPツアーのご案内、また私たちの活動に大きく貢献してくださる方としてジャパンハートから公式に"ジャパンハートエバンジェリスト"の称号を付与させていただきます。

▼お申込みはこちらから

※既存のマンスリー寄付会員様におかれましては、変更お手続き等は必要ございません。現在のマンスリー寄付金額に応じて、上記御礼のご案内をさせていただきます。

※上記御礼のご案内はメールにてお送り致しますので、メールアドレスのご登録がお済みでない方は、（shien@japanheart.org）までご連絡を頂けますと幸いです。

ジャパンハートアドバイザリーボード

本田 圭佑

田村 淳
ロンドンブーツ1号2号
タレント

吉田 正樹
株式会社ワタナベエンターテインメント
代表取締役会長

小松 成美
作家

山田 孝太郎
株式会社メルカリ
代表取締役CEO

望月 理恵
株式会社セントフォース所属
フリーアナウンサー

濱口 美浩
起業家

この度、本田圭佑さんを初めとする10名の著名な方々が私たちの応援者としてジャパンハート アドバイザーに就任し、今後一緒に活動してくださることになりました。

アドバイザーの方々には、
ジャパンハート主催イベントへの登壇やマンスリーサポーター限定コミュニティ「ジャパンハート部」Facebookグループへのご参加など、私たちの活動を応援していただきます。

引き続き、皆様のあたたかいご支援を、何卒よろしくお願い致します。

Japan Heart